

カフェプレイエルの所蔵スピネットについて

Bentside Spinet Cembalo by YOSHIOKA

スピネット 2001年 吉岡 弘司 作

スピネットは16世紀～18世紀にヨーロッパで広く使用された家庭用小型チェンバロである。カフェプレイエル所蔵のスピネットは、吉岡弘司氏（安曇野市在住）が、現代において至高の音を再現し、理想のスピネットを製作しようと手がけた銘器である。

製作にあたり、一切の市販品や規格製品は使わず、長野県産材料を多く使い、約一年半を費やし、カフェプレイエル開店にあわせて、2001年に完成した。

木材は、しらびそ、さくら、ぶな、かえで、つが等を用い、鍵盤はシャム柿と象牙である。ボディ材は25年間乾燥させたチリ産の高冷地のさくらを使用するなど、ひとつひとつこだわって材質を選んでいる。

外装の漆は、吉岡氏自宅の庭で採取したものを加え、塗る筆まで自ら製作したものを使用している。響板に張られた弦は、金属の専門家である吉岡氏が、スピネットの高音域から低音域音に合うよう、それぞれに作ったものである。

このスピネットは、通常の前モデルより大きいのが特徴である。ジルバーマンを基本モデルにしながらも、吉岡氏がより音の豊かさを追求した結果である。しらびそ材の響板に空けられた音の抜けるローズとよばれる穴には、北アルプスの麓にふさわしく、波田から望む乗鞍岳が彫ってある。また置かれた状態では見ることはできないが、楽器の後部から蓋にかけて金箔と銀箔が貼られている。十余年を経て銀は黒く変わり、金と黒の魔除けに因んでいる。その金箔、銀箔は蓋を開けて背面裏から見ると、槍ヶ岳の雄姿がイメージされたデザインとなっている。湿度によって埋め込まれた香木からの香りなど、様々なところに人知れぬ吉岡氏の楽器製作の真摯さをかいま見ることができる。

蓋を開けた内側前面には、ラテン語で彫られた美しい詞がこのスピネットの総てを物語っている。

Musica Donum Dei <英読み表記>

Mvsica Donvm Dei <ラテン語表記>

《 音楽は神の贈り物 》